名鉄太田川駅から東へ延びる歩道約600mには、シランやセッコク系 デンドロビウム、フウランなど、12種類のランが約7,000株植栽されています。

なかでもシランは、愛知教育大学名誉教授の市橋先生が品種改良された、個性あるオリジナルの16品種をはじめ、珍しい色の野生種等、他ではなかなか見ることができない貴重な花を楽しむことができます。

ランの道監修

愛知教育大学名誉教授 市橋 正一 氏





愛知教育大学の教授として、花き園芸学、ランの生物学等の分野の研究 に携わってこられ、東海市の生産者とも長年にわたり関わりのあったご縁から、 太田川駅東歩道「ランの道」の監修をしていただいています。

令和6年2月に台湾で開催された「世界蘭会議2024」において、世界のラン専門家や愛好家に向けて「ランの道づくり」についてご紹介いただきました。

管理ポランティア

大田まちづくりの会 蘭の道グループのみなさん





水やり、雑草取りなど、日常管理の中心を担ってくださっています。

訪れる人たちに楽しく散策してほしい、そして、「ランのまち」東海市を次世代へ引き継いでいきたいという思いをもって、日々ランの道づくりに尽力されています。



<始まりは牡丹栽培から>

本市の花卉園芸の歴史を辿ると、始まりは江戸時代の中期、現在の大田町で牡 丹栽培が行われていたことがきっかけ と言われています。

大正時代には村の特産となり、花を見 に訪れる人々のため、当時の太田川駅南

に臨時の停留所がつくられるほど盛んであった牡丹栽培ですが、昭和 17 年 (1942 年) 頃には、戦時中の作付制限等の理由から、姿を消してしまいました。

<観葉植物時代の到来>

知多半島で観葉植物の栽培が始まったのは、昭和28年(1953年)からと言われていますが、販路が開拓されるにつれ、本市でも盛んに生産されるようになりました。アナナス、観音竹、ヤシ等、



様々な観葉植物が栽培されましたが、なかでもアナナスはブームが起こり、 栽培されているところへ観光バスが訪れることもありました。

<洋ランの栽培が増え始める>

昭和 35 年 (1960 年) 頃、観葉植物時代の到来とともに、洋ランの栽培も始まりました。昭和 40 年 (1965 年) 代中旬にメリクロン苗(培養技術により増やした苗)が普及すると、大量生産が可能になったことで、生産者も増え、洋ランは本市の特産品になっていきました。



<未来に繋げていくために>

「ランの道」づくりは平成 29 年度 (2017年度) から始まりました。太田川駅周辺の区画整理事業に伴い、「大田まちづくりの会」の皆さんから、まちの活性化のため、市の特産であるランを植栽してはどうかと提案をいただいたことがきっかけです。

東海市の新しい観光名所になることを 目指して、市民参加による植栽会や、日常 管理など、多くの人の協力のもと、ランの 道づくりは現在も続けられています。





植栽会は、あいち森と緑づくり税を財源とするあいち森と緑づくり事業により実施しています。



ラシの道

Tokai City

見どころガイド



